

大瀧区 第48号 地域協議会だより

発行日 令和3年7月25日
発行 大瀧区地域協議会
会長 君波 豊
編集 会報編集委員会
事務局 大瀧区総合事務所
総務・地域振興グループ
電話 534-2111

令和3年度 地域活動支援事業 (大瀧区) 採択事業一覧



道標石碑

採択事業名	決定補助 (単位:千円)	提案者
1 大瀧区散策ルート作成事業	880	まちづくり大瀧
2 大瀧区魅力PR事業	141	まちづくり大瀧
3 旧米山道、奥州道道標石碑修復事業	324	瀧町町内会
4 子ども体験事業※	120	大瀧の子どもを育てる会
5 九戸浜のお宝発掘事業 ※ 第2弾 お宝パンフレット作成	399	九戸浜町内会
6 「天保6年堀割御普請中日記帳」解説文の出版事業	628	郷土史友の会 おおがた
7 生徒と地域をつなぐ活動の周知事業 ※	1,443	大瀧町中学校 PTA
計	3,935	

※印は継続事業です。

配分額：7,100千円 配分残額：3,165千円

提案事業全7件を採択



地域活動支援事業の採択審査
(第2回地域協議会 6月3日)

地域協議会は6月10日、本年度の大瀧区地域活動支援事業について、各団体から提案された全7件を採択しました。採択された事業は左の表のとおりです。
補助額合計は、393万5000円。316万5000円の配分残額があることから、追加提案を募集することを決定しました。

追加募集 6月14日～7月19日受付

受付期間は、6月14日(月)から7月19日(月)までとしました。
なお、追加募集の採択及び補助金決定は、8月19日に予定している第4回地域協議会のプレゼンテーション後、直ちに行います。
市全体では、12地域自治区で追加募集を行っています。

地域内の活動を知る

新保 輝松

昨年、地域協議会委員となり、初めて取組んだのが地域活動支援事業の審査・採択でした。提案書やプレゼンテーションを通じて、いろいろな団体や多くの人たちが活動していることを知りました。地域の活動に余り関心がなかった自分が審査することを恐縮に感じ、身の引き締まる思いがしました。
今後、取組む課題の審査では、ひとつでも有効な提案やアドバイスができればと思っています。

施設廃止検討の議論に思う

関 清

地域協議会の一年を振り返って思うことは、市の低利用施設の廃止検討の議論を進めるという場にいきなり置かれ、毎回大いに戸惑いました。議論の過程の理解を進めることが必要だと思います。市の計画案は、膨大なもので毎回未消化状態での参加になりました。今年は、今一度読み返して自分達の立ち位置を自覚したいと思っています。
ともあれ自主的審議事項が「鶴の浜人魚館の利活用の推進について」に決まり、期待しています。



自粛で得たもの・失ったもの

土屋 郁夫

感染症予防のため、全国的な自粛により不便な日々が続いています。大瀧区でも行事中止が相次ぎ、寂しい限りです。
さて、自粛で得たものはあるのでしようか。答えは人それぞれ違うでしょう。当たり前だと思っていたことの価値を再発見する機会になったかもしれません。
私は、地域協議会同士が情報交換できる場が必要だと感じています。地域協議会活動の意義を再考しながら、他地域の協議会との連携も模索したいです。

地域課題と向き合う

責任を実感

中野 幹根

コロナ禍の1年でした。日常生活において、ウイルスに怯え正常な生活が送れませんでした。大変な1年でした。協議会でも常に感染予防のために席の間隔を空け、ドアを開放するなどして対策に懸命でした。
私達委員も2年目となり、月一回の協議会にもようやく慣れてきました。少しずつではありますが、大瀧区の抱える問題に目を向けることが出来つつあります。同時に責任の重大さを改めて痛感した次第です。

大雪とコロナを

体験しての1年

濁川 清夏

令和3年1月の豪雪により、約一週間にわたり町内の道路はほとんど通行不能となり通勤・通学、買い物と大変な毎日でした。それだけでなくコロナ禍で思うように活動できず、あらためて令和2年度を振り返ってみると様々な悪影響が見えてきます。

大瀧区内では、児童数の減少に伴い大瀧児童館の方向性について現地

編集後記

▼令和3年度も3ヶ月が過ぎ、五輪の聖火ランナーも上越地域を通過しました▼地域活動支援事業の当初提案の審査も終了し、本年度の活動が始まりました▼新型コロナウイルスのワクチン接種も始まり、会場では個人及び職員の皆様が密にならないように対策をしています▼ワクチン接種が終わっても「自分の身は自分が守る」を心がけ、今まで以上に感染予防をしましょう。(俵木一松)

(編集委員) 俵木一松・濁川清夏
中野幹根・佐藤忠治

視察なども実施し、話し合わせ、今後の方針がある程度見える形となりました。
大瀧町中学校野外テニスコートの照明器具についても、同じように利用者が少なく検討した結果、廃止となりましたが、協議会としては充分に話し合いを行ったと思います。
今後も様々な問題をひとつひとつ取上げ、議論を続けていくことが我々協議会の使命と認識しています。今年度は、大瀧健康スポーツラザ鶴の浜人魚館の運営上の課題、利活用の方策などを検討し、より良い方向に導くことが出来ればと考えています。

鵜の浜人魚館の利活用の促進について

自主的審議事項に 決定！

概要

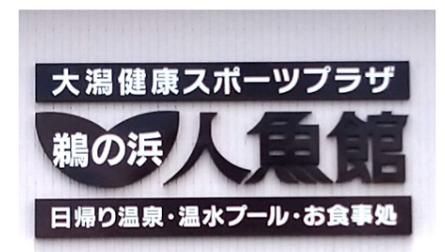
大湊区の観光、地域振興の中核的施設かつ、鵜の浜温泉のランドマークでもある大湊健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館は、地域住民の健康増進及び地域コミュニティ活性化に欠かせない施設である。

地域活性化のために、運営上の課題研究、その改善と、更なる利活用の方策について検討し、利用者の増加と、施設運営に関わる公費負担額削減を図る。

経過

3月18日、第12回地域協議会において各委員から提出された自主的審議事項の項目について審議し、「大湊健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用の促進」を審議することに決定した。

6月1日、市の担当課に6月10日（第3回地域協議会）を審議開始日とする「地域協議会の自主的審議事項に関する通知票」を提出した。



大湊健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館

大湊区地域協議会の開催状況（令和3年3月～6月）

令和2年度 第12回	3月18日（木）	①大湊健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の営業時間変更について ②令和2年度地域活動支援事業（大湊区）成果報告について ③自主的審議事項について
令和3年度 第1回	4月22日（木）	①令和3年度地域活動支援事業（大湊区）審査日程等について ②自主的審議事項について
第2回	6月 3日（木）	①令和3年度地域活動支援事業（大湊区）提案事業について（プレゼンテーション）
第3回	6月10日（木）	①令和3年度地域活動支援事業（大湊区）の採択・補助額について ②令和3年度地域活動支援事業（大湊区）の追加募集について ③自主的審議事項について

勉強会の開催状況（令和3年3月～6月）

令和3年度 第1回	5月20日（木）	①地域活動支援事業の審査について ②令和3年度地域活動支援事業（大湊区）について
--------------	----------	---

一年を振り返って

地域協議会委員に、一年を振り返っての思いや今後の課題について原稿依頼をいたしました。2回に分けて掲載します。



地域の人と共に考える 地域協議会に

五十嵐 郁代

コロナ禍の中での1年目の地域協議会委員は、思うような活動ができず大変残念な思いです。地域活動支援事業は、地域が元気

になるような申請が少なく、次年度へ期待していますが、ワクチン接種も進み、感染予防対策をとりながら「新しい生活様式の中、地域で最後まで元気に暮らすにはどうしたら良いか」を、地域の人と共に考えられるような地域協議会にしていかねばと思います。

地域活動支援事業 初めての審査

五十嵐 公子

コロナ禍での地域協議会委員活動も2年目に入り、先日、地域活動支援事業の審査を無事に終えました。大湊区には各関係の団体が多数あり、それぞれの役割を把握するため資料の読み込み、話をうかがったりと自分なりに努力をしてきました。

これからは大湊区以外での地域活動や地域協議会にも目を向けて、大湊区の発展に繋がる意見が出せるように頑張ります。

地域の活性化に寄り

金澤 信夫

協議会委員になり、令和2年度地域活動支援事業の審査及び採択から始まった。審査する前に、支援事業とは何かを理解した上で、各団体から提案された事業について自分なりに地域活性化に寄与するかなどの判断基準を考え審査に望んだ。事業は立ち上げるよりも、維持・継続することの方が難しいといわれており、消滅や先細りしないことを願っている。

これから地域協議会として「鵜の浜人魚館の利用促進について」の自主的審議事項の協議をする。大湊区にとって大切な施設であることから、現状把握した上で、前向きな意見を出していきたい。

「コロナ禍での

第5期大湊区地域協議会

君波 豊

「コロナ感染禍の最中、地域協議会委員経験者3名、初めて経験する委員11名の計14名によって第5期大湊区地域協議会はスタートしました。

協議会にとって一大事業とも言える令和2年度の地域活動支援事業の審査、採択、補助金額決定作業も無

事に終え、感染防止を図るうえでなんとか制約条件の多い協議会を乗り切ることができました。残念だったのは、地域活動支援事業の成果報告会を開催できなかったことです。ワクチン接種に加えて、即効的な治療薬が開発され、一日も早く、コロナ以前の生活に戻りたいと思っています。

「コロナ感染禍での活動

佐藤 忠治

世界的なコロナ感染禍での地域協議会は、マスクの着用と換気対策でドアを開放しての会議でした。一方で、テレビニュースでの感染者数の発表や感染症関連専門家出演する夜の番組を見る毎日でした。

一年の前半の地域活動支援事業の審議期間は、泌尿器器官への2ヶ月にわたる放射線治療と手術のための日々でした。後半は療養中ではありましたが、地域の地域自治・住民自治の研究・学習の市民グループ「住民自治を進める会」で「公の施設の適正配置問題について」の調査と検証に没頭しました。

今後、一日も早くコロナ感染症が収束し、協議会委員や住民の人々と車座になって語り合い、飲み交わしたいものです。